



☆吉田富三記念館☆



☆埴厚生病院☆



☆白河の関☆

豊かな自然、歴史、文化のふるさと
「ひがししらかわ」で
“地域医療体験”と“地域の皆様との交流”を

地域医療体験研修とは

地域医療に関心を持つ医学生を対象に、地域医療の現状視察や地域住民との交流などの場を提供し、東白川地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうことを目的としています。

研修日：平成24年2月28日（火）～29日（水）

対象：医学部学生 募集定員5名以内

場所：東白川郡矢祭町、埴町他
環境放射能測定 23/11/11 (0.20 μ Sv/h) (0.11 μ Sv/h)

内容：視察（埴厚生病院、金澤医院、白河厚生総合病院）

懇談会（医療従事者、臨床研修医）

介助体験（特別養護老人ホーム）

吉田富三(がん研究者)記念館見学

地域住民との交流



(下記に記入の上、F a xまたはメールでお送りください。)
(※メールの場合は「福島県県南保健福祉事務所ホームページ」から様式(word形式)をダウンロードして使用してください。)

福島県県南保健福祉事務所 地域支援課行き

Fax: 0248-22-5451

E-mail: kennan.hokenfukushi@pref.fukushima.jp

地域医療体験研修（冬期）参加申込書

申込日：平成 年 月 日

(ふりがな) 氏名		性別	男・女
生年月日	昭和・平成	年	月 日生
現住所	〒 TEL (携帯) E-mail		
上記以外の連絡先 (帰省先等、上記以外の連絡先がある場合に記入してください)	〒 TEL		
大学名	大学 (年生)		
出身地	(都道府県名)	(市町村名)	
集合場所 (希望する場所に○)	J R福島駅 ・ 福島県立医科大学 ・ J R新白河駅		
質問等ありましたら、記入してください。			

※申込書を送付された方には、申込書を受領した旨確認の電話またはメールをいたします。

申込書を送って数日経っても連絡がない場合には、下記までお問い合わせください。

(福島県県南保健福祉事務所 地域支援課 片平 Tel: 0248-22-5447)

地域医療体験研修参加者の声

☆平成23年度夏期研修☆ 獨協医科大学医学部2年 宮一佑衣さん

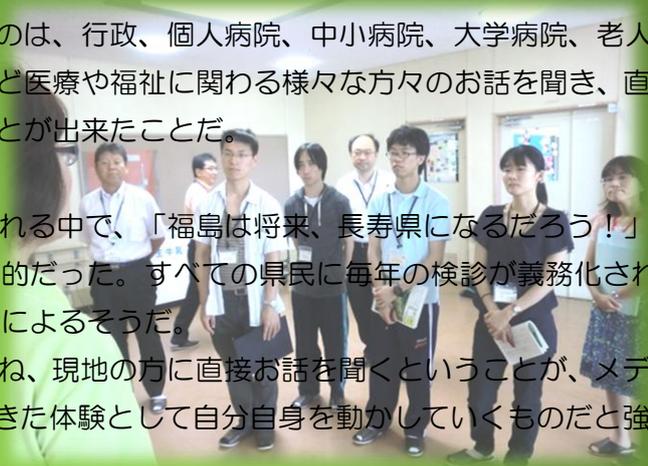


今回、私は以前同じ企画に参加した先輩の紹介により参加を決めた。この研修は予想以上に有意義で、東日本大震災で大きな被害を受けている「ふくしま」に対する見方も大きく変わった。

特に良かったのは、行政、個人病院、中小病院、大学病院、老人・障がい者施設など医療や福祉に関わる様々な方々のお話を聞き、直接議論を交わすことが出来たことだ。

震災後、放射線の長期的な影響が懸念される中で、「福島は将来、長寿県になるだろう！」という福島県立医科大学の先生の言葉が印象的だった。すべての県民に毎年の検診が義務化され、今まで以上に病気の早期発見に繋がることによるようだ。

自分の足で実際に、関心のある土地を訪ね、現地の方に直接お話を聞くということが、メディアや書物などによる情報よりも、ずっと生きた体験として自分自身を動かしていくものだと強く感じた。



☆平成23年度夏期研修☆ 東京大学医学部6年 矢野徹宏さん



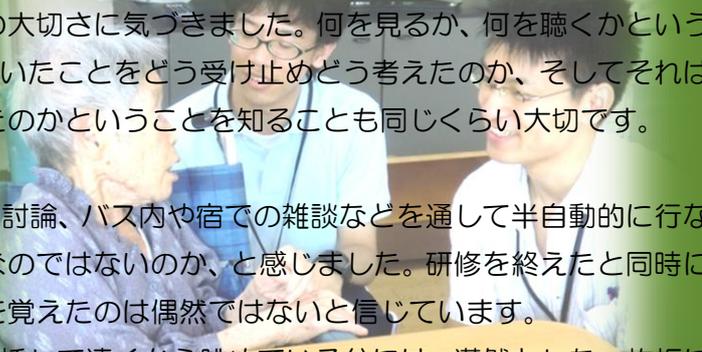
大学の授業ではあまり詳しく扱わない地域医療について、その第一線で活躍する方々のお話を聴く貴重な経験になりました。そもそも、私は以前からこういった体験型の学習にある種の抵抗がありました。

「見るだけで何がわかるんだ」という批判ではないが、数日という短い期間で何かをわかった気になることに対する抵抗を少なからず感じていました。

しかし、今回の研修では様々な視点を持った方々と経験を共有し、その経験を私の思考の枠組みの中に落ち着けていくプロセスの大切さに気づきました。何を見るか、何を聴くかということ自体も大切ですが、見たこと、聴いたことをどう受け止めどう考えたのか、そしてそれは他の人が考えたこととどう違っていったのかということを知ることも同じくらい大切です。

このプロセスが全く自然に、見学や討論、バス内や宿での雑談などを通して半自動的に行なわれていくことが体験型学習の意義なのではないのか、と感じました。研修を終えたと同時に、視界が開けたような清々しい感覚を覚えたのは偶然ではないと信じています。

「地域医療」という一言で全体を包括して遠くから眺めている分には、漠然とした一枚板にしか見えませんが、そばに寄って間近に見つめ手で触れてみたことで見えなかった手がかりに気づき、それを取っ掛かりにしてかえって全体がよく見えたような気がしました。



地域医療体験研修参加者の声

☆平成22年度冬期研修☆ 帝京大学医学部生

自分が将来、地域で働く時に活かせるような良い経験がこの研修でできたと思います。

地域医療といっても、自分ではまだどういうものなのかわからないことが多すぎましたが、実際に現場を見ることで「こういうものなのか」という大まかなイメージを作ることができました。

ただ地域の人をみれば良いというだけではなく、その患者さん、患者さんの家族・親族などまでをみて初めて診察が成り立っていて、本当に地域全体を見なければいけないということは大変なことであると感じました。

だから、病院の診察室の中だけでなく、集会や普段の生活の中でもしっかりと関わっていくことが必要になってくると思います。

地域の医師不足は1人だけが頑張ってもどうにもならないことであり、行政や地域住民が協力して解決していかなければいけないことだと強く感じました。



☆平成22年度夏期研修☆ 福島県立医科大学医学部生

私がこの県南地域医療体験研修に参加しようと思ったのは、福島医大で学ぶ医学生として、福島市街や郡山市街だけでなく、へき地医療の現状を学ぶのも重要だと考えたからです。

実際に研修先の東白川地域に行ってみると、地域に救急を受け入れられる病院が一つしかないとか、村に診療所が一つしかなく、その診療所も毎日開いているわけではないなど、自分の住んでいる地域とは全く異なる状況を目の当たりにして、改めてこれからの地域医療はどうあるべきか、考えていかねばならないと感じました。

その地域に住む方々のご意見を伺ってみても、やはり不便に感じている人は多かったように思います。

また、研修では血圧測定の方法や聴診器の使い方を学ばせていただいたり、地域の伝統行事に参加させていただいたりして、非常に貴重な体験ができました。

これからは、自分の体験をより多くの人々に知ってもらえるよう活動していきたいですし、自分もこのような事業に積極的に参加して、地域医療への理解を深めていきたいと思います。



医師及び医師を志す学生の皆さまへ



本県は、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、甚大な被害を受けましたが、全国から多大なる御支援、御協力をいただいた結果、復興に向けた息吹きを感じられるまでになりました。

特に、県民の命を守るため、多くの医師、看護師等医療従事者の皆さまが、いち早く避難所での巡回診療や在宅訪問診療など、医療・保健の両面で県民の安心・安全を支えていただき、大変心強く思うと同時に、医師確保を始めとした更なる医療体制の整備が急務であり、より一層地域医療を確保していくことの必要性を痛感して

いるところです。

全国的に医師不足が叫ばれている中、福島県では、産科や救急医療を担う医師の処遇改善、女性医師支援センター設置等による女性医師のキャリア維持・向上への支援、研修医の受入体制の整備、福島県立医科大学医学部入学定員の増員や医学生に対する修学資金貸与制度の拡充など、様々な取り組みを展開しているところです。

日本を代表する医聖、野口英世博士が生まれ育った福島県。復興までには、時間が必要となるかもしれませんが、「がんばろう ふくしま！」を合言葉に、県民と一丸となって、復興に向けて全力で取り組んでまいります。

皆さまには是非とも、福島県の地域医療の復興にお力添えくださることを、心より願っております。

福島県知事 佐藤 雄平



☆「ひがししらかわ」
棚倉町、矢祭町、塙町、
鮫川村の東白川郡の
4町村の総称です。



福島県 県南保健福祉事務所
総務企画部 総務企画課

電話番号 0248-22-5447

FAX 0248-22-5451

kennan.hokenfukushi@pref.fukushima.jp